

新しい年度を迎えて



今年もまた、新たな生命の息吹を生み出す清々しい季節が到来しました。新入生や新入社員たちが胸はずませて新たな社会へと飛び立つ季節であり、私たちの周囲にはフレッシュなエネルギーが満ち溢れています。社会人になって長年が経過する私たち^{おとな}大人にとって、この季節は、当時の澁刺とした気持ちを思い出させてくれる機会であり、若さを維持するためにも、年に一度必ず訪れるこの季節を大切に過ごしたいと思います。

さて、昨今、相撲界やレスリング界における暴力事件やパワハラ問題がテレビや雑誌などのメディアに取り上げられ、様々な人がいろいろな意見を述べています。そしてその多くは、特定の組織や人物を悪者に仕立て上げるために、陳腐な理論を物知り顔で論じたものです。もちろん、意見を述べることは自由ですが、率直に言って、それらの意見の多くは、公共の電波や通信にのせて「不特定多数の人に公開するほどのものではない」と言わざるを得ません。そもそも、今起きている事案は、相撲界やレスリング界を深く経験していない人に分かるレベルの問題ではないのであって、これ等の問題に対して、ごく一般的な社会のモノサシ(価値観)を押し当て、そのモノサシに合わないことを捲し立てても、実の関係者には何も響かないでしょう。そういう意見を言うのと、マスコミや文化人と称する芸能人たちに突っ込まれるでしょうが、新聞や雑誌の記者たちが夜討ち朝駆けしている労働実態は果たして法や世間の常識にかなっているのだろうか？ タレントたちが夜中でも「おはよう」と挨拶するのは世間とズレていないのだろうか？ 事ほど左様に、どのような世界でも、その世界が延々と作り上げてきた文化や作法・慣習はあるものです。ときにそれらは、他の世界から見ると理解しがたいものかもしれませんが、それを画一的なモノサシにより、一方的に批判すべきではないでしょう。

もちろん、表面に表れている暴力事件やパワハラ問題を肯定しているわけではありません。私たち空手界にも独自の文化や慣習はありますので、師範・師範代・指導員と呼ばれるリーダーたちは、特に次のふたつの点に注意する必要があります。

1. コンプライアンス、つまり法を犯してはならない。私たちは空手界の人間である前に、一社会人だからです。したがって、いくら弟子の教育のためとはいえ、傷害事件は許されるものではありません。
2. 武道などのスポーツ化、さらには国際化にともなって、パラダイム(規範)が変化することに注意する必要があります。相撲も外国人力士が増え、おそらく、かつて純血で育んできた文化に亀裂が入りつつあるということでしょう。

まさに、2020年の東京オリンピックに向けて、急速に進展するスポーツ化と国際化がかつての空手文化を変化させつつあります。リーダーはその事実を直視しつつ、良き文化と伝統を継承しながらも、「新しいスポーツ流のルールでも勝ち抜いていける武道家」を育てることが大きな課題になっていることを知るべきなのです。2018年度も難しい年になりそうですが、一致協力して頑張っていきましょう。



2018年4月1日

日本空手道錬聖会 会長 森 拓生